

沢田ともふみ 議員活動報告



【磐田市から県議会へ】

みなさん、こんにちは。年度当初の学校休業により、多くの学校がこの秋に運動会を実施しています。運動会での子どもたちの輝く姿を参観させていただくと同時に教職員のみなさんと意見交換をしました。その中で、「保護者の就労が困難になり、就学援助の申請が増えた。」「ブラジル人学校に通っていた外国人児童生徒が、親の収入減等により学校への費用が払えなくなり、公立学校に編入してきている。」という声が多く聞かれました。現在のコロナ禍において、問題を抱えている方が多くいらっしゃいます。みなさんの声を聞き、県として支援できる施策を検討してまいります。今後もよろしくお願い致します。

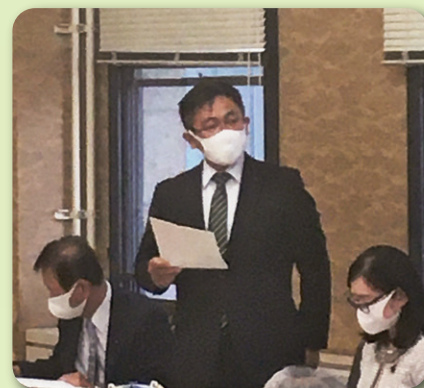
静岡県議会議員 沢田 智文

総務委員会 議会運営委員会に所属

委員会には、常任委員会、特別委員会、議会運営委員会があります。

常任委員会には、総務、危機管理くらし環境、文化観光、厚生、産業、建設、文教警察の7つの委員会があります。今年度は総務委員会に所属し、本会議で付託された議案などを審査しています。

また、議会運営委員会は、議会を円滑に運営するために設けられています。議会の運営、会議規則や委員会条例に関することなどを協議・審査します。



活動報告 ~まずは現地を視察して~

平野ビニール工業の視察



9月2日

磐田市に本社のある平野ビニール工業を会派として視察しました。外国人労働者の雇用に積極的に取り組んでいる企業です。会社で日本語教育を実践したり地域への行事参加を呼び掛けたりと外国人労働者の生活も守っていました。

藤枝市瀬戸ノ谷地区の林業視察

森林・林業・林産業活性化促進議員連盟で藤枝市瀬戸ノ谷地区の林業の様子を視察しました。森林との共生による持続可能な社会の実現に向け、静岡県で取り組んでいる「森の力再生事業」等の充実を支援していきます。



7月30日

リニア新幹線トンネル工事の視察



10月20日

会派ふじのくに県民クラブで、リニア新幹線のトンネル工事が進んでいる長野県を視察しました。静岡県の水問題については、県民が納得できる状況をつくることに引き続き慎重に取り組んでいきます。

まちじゅうアート

東京 2020 オリンピック・パラリンピック併設事業である「文化プログラム」の一環として「静岡県障害者文化芸術振興事業」があり、私もその一員として参加しています。障害のある人の作品を企業等へ貸し出すことで、静岡県内まちじゅういたるところで障害のある人の作品を目にすることができる環境を創出します。事務所にも飾ってあります。

上記以外の活動報告

4月 ・ 西部児童相談所意見交換

5月 ・ 市内小中学校再開状況視察
・ 県教育委員会との意見交換

6月 ・ 県防災センターリニューアル視察
・ 観音山少年自然の家視察

7月 ・ 静西教育事務所意見交換

・ 連合静岡意見交換会
・ 天浜線活性化促進議員連盟視察
・ 会派まちかどヒヤリング三島

8月 ・ 防災学習会

・ 磐田国際交流協会日本語ボランティア養成講座視察

9月 ・ 会派多文化共生部視察

・ 豊かな教育環境を進める議員交流

10月 ・ 農福連携技術支援者養成視察

・ 市内小学校運動会参観





農福連携の推進について

《質問要旨》

県は、6月に農福連携ワンストップ窓口を開設し、農業経営者と障害のある方とのマッチング支援を開始した。今後、さらに進めるため、どのような取組を推進していくのか。

《川勝知事答弁》

障害のある方の働く現場の環境を整える支援人材として、国が認定している「農福連携技術支援者」を今年度 20 名養成する。10 月から養成研修を開始する。双方が発展していく農福連携の更なる推進を図っていききたい。

外国人労働者の雇用について

《質問要旨》

外国人労働者の雇用を守るためには、日本語能力の向上などに取り組む必要がある。雇用を守るためにどのように取り組んでいくのか。

《経済産業部長答弁》

外国人労働者の方々も、地域で共に暮らす県民であるという視点に立ち、市町や関係団体、地域と連携しながら、日本語能力や就労に必要なスキルの向上を積極的に支援し、外国人労働者の雇用を守る取組を着実に進めていきたい。

子ども家庭総合支援拠点の設置について

《質問要旨》

子ども家庭総合支援拠点の全市町設置に向けて、どのように働きかけ、支援をしていくのか。

《出野副知事答弁》

先進事例を参考に、妊産婦や乳幼児を支援する子育て世代包括センターの併設による人員の効率的な活用を提案するなど市町の実情に応じた助言を行っている。全市町の早期の設置に全力で取り組み、未来を担う子どもたちが大切にされるふじのくにづくりを進めたい。

次世代への静岡の魅力発信について

《質問要旨》

子どもや若者が静岡の魅力を見いだせる有益な情報は、必要な時期にわかりやすく伝える工夫が必要である。魅力発信のあり方について所見を伺う。

《知事戦略監答弁》

小さな子どもたちには、ふじっぴーを活用している。県内の高校等を卒業する若者には、「ふじのくにパスポート」を配付して、情報を伝えている。若い世代には、動画の活用に取り組んでいる。年齢層に合った公報手段を用いて、静岡の魅力を発信していきたい。

ICTを活用した子どもたちの資質能力の育成について

《質問要旨》

子どもたちの学びをサポートするため、教職員の研修や外部の専門的な知識・技能の活用も必要である。ICTの活用をどのように進めていくのか。

《県教育長答弁》

日常的にコンピュータにふれるプログラミング学習や多様な教材による思考を深める学習など、授業へのICTの活用を推進している。また、ICT機器を利用した協働学習やAIの教材の導入を推進している。また、民間企業との共同による研修や外部との連携を進めている。

女性警察官の継続的な活躍に向けた取組について

《質問要旨》

女性警察官が、仕事と出産・育児を両立させ、継続的に活躍できる体制づくりの取組についてどのように進めていくのか。

《警察本部長答弁》

勤務地や勤務内容について希望調査を行い、復職後も安心して働き続けることができるよう人事措置を講じている。育児短時間勤務を補完するため任期付短時間勤務職員を任用している。育児休業の取得促進に向けた環境整備を行うなど、仕事と出産・育児の両立支援や体制の確保を図っている。



静岡県議会議員

沢田ともふみ
事務所

〒438-0086 磐田市見付(二番町)2469
電話:0538-39-2500 FAX:0538-24-8128
メール:qqrf9nu9k@wind.ocn.ne.jp

農福連携とは？

障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画することを実現していく取組です。農福連携に取り組むことで、障害者等の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながる可能性もあります。



子ども家庭総合支援拠点とは？

2016年に成立した「児童福祉法等の一部を改正する法律」において、市区町村は、子どもとその家庭及び妊産婦の福祉に関する支援業務を適切に行わなければならないことが明確化されました。全市区町村は2022年度までに「子ども家庭総合支援拠点」を設置しなければなりません。支援拠点は、家庭状況の把握、子ども等に関する相談全般から通所・在宅支援を中心としたより専門的な相談内容や必要な調査、訪問等による継続的なソーシャルワーク業務を行う機能を担います。

